

# 十三のまちの将来像に関する調査・研究

## 報 告 書

令和3年3月

公益財団法人都市活力研究所  
協力 総合調査設計株式会社

## 目 次

1. 事業概要	1
2. 有識者ヒアリングの実施	13
3. 全体会議の開催	19
4. とりまとめ	22

# 1. 業務概要

## ◆事業目的

将来のあるべき姿としてブランディングできる、十三のまちの魅力を探索するために、十三のまちの魅力を発見していくための視点や論点を様々な分野の有識者からいただき、これらを取りまとめる。

## ◆業務概要

### (1) 有識者へのヒアリングの実施

まちの魅力を発見していくための視点や論点について、次の専門分野の有識者との調整・ヒアリングを実施する。

- ① マーケティング      ② まちの構造・交通      ③ 景観
- ④ 安全（防災・防犯）      ⑤ 産業

### (2) 総括の場の設定

上記有識者を一堂に集める会議の場を設定し、意見交換や総括を行う。

### (3) 意見の集約・とりまとめ

(1) (2) で得られた意見等を集約し、とりまとめを行う。

### (4) 報告書作成

調査・研究結果を報告書としてとりまとめる。

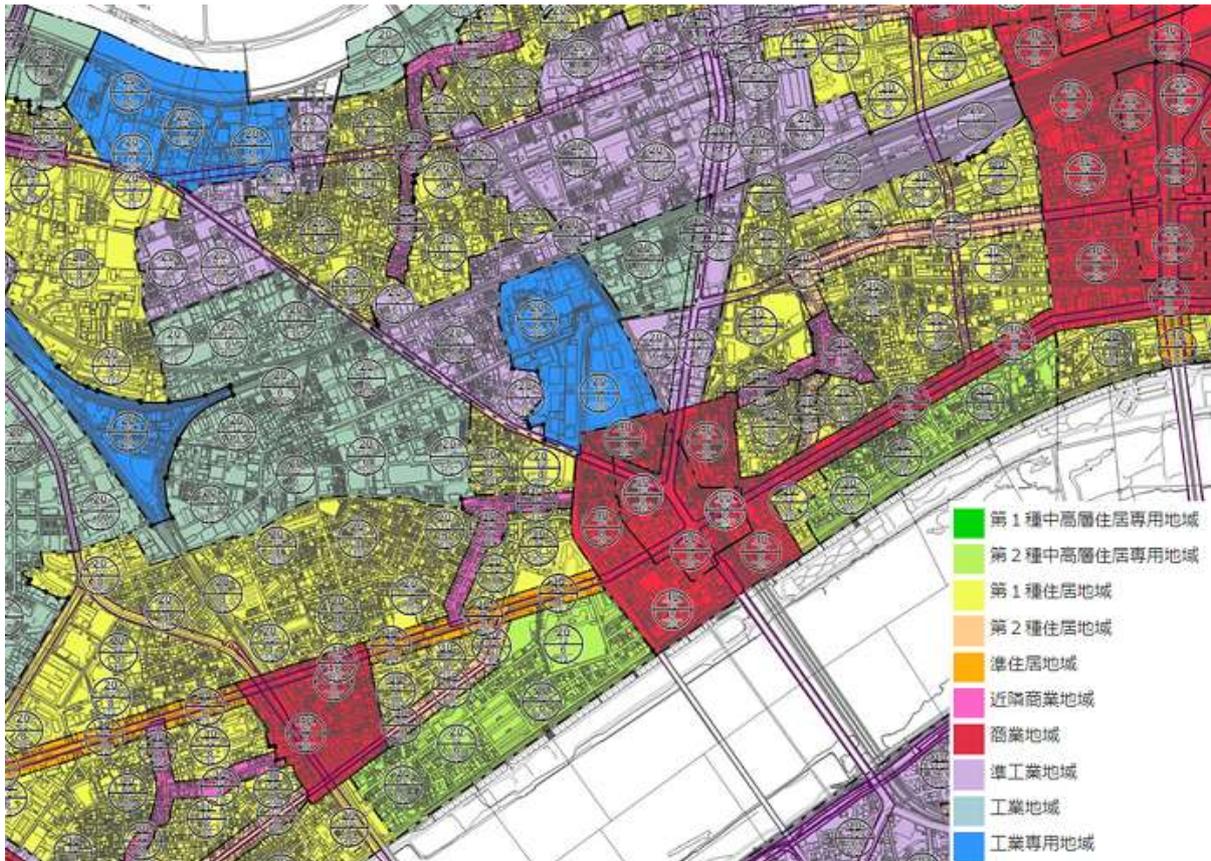
## 2. 十三の現状

### ①十三周辺の用途地域

○十三駅周辺は商業地域に指定。

○淀川沿川は、十三駅に近い所は商業地域、それ以外は概ね第2種中高層住居専用地域に指定。

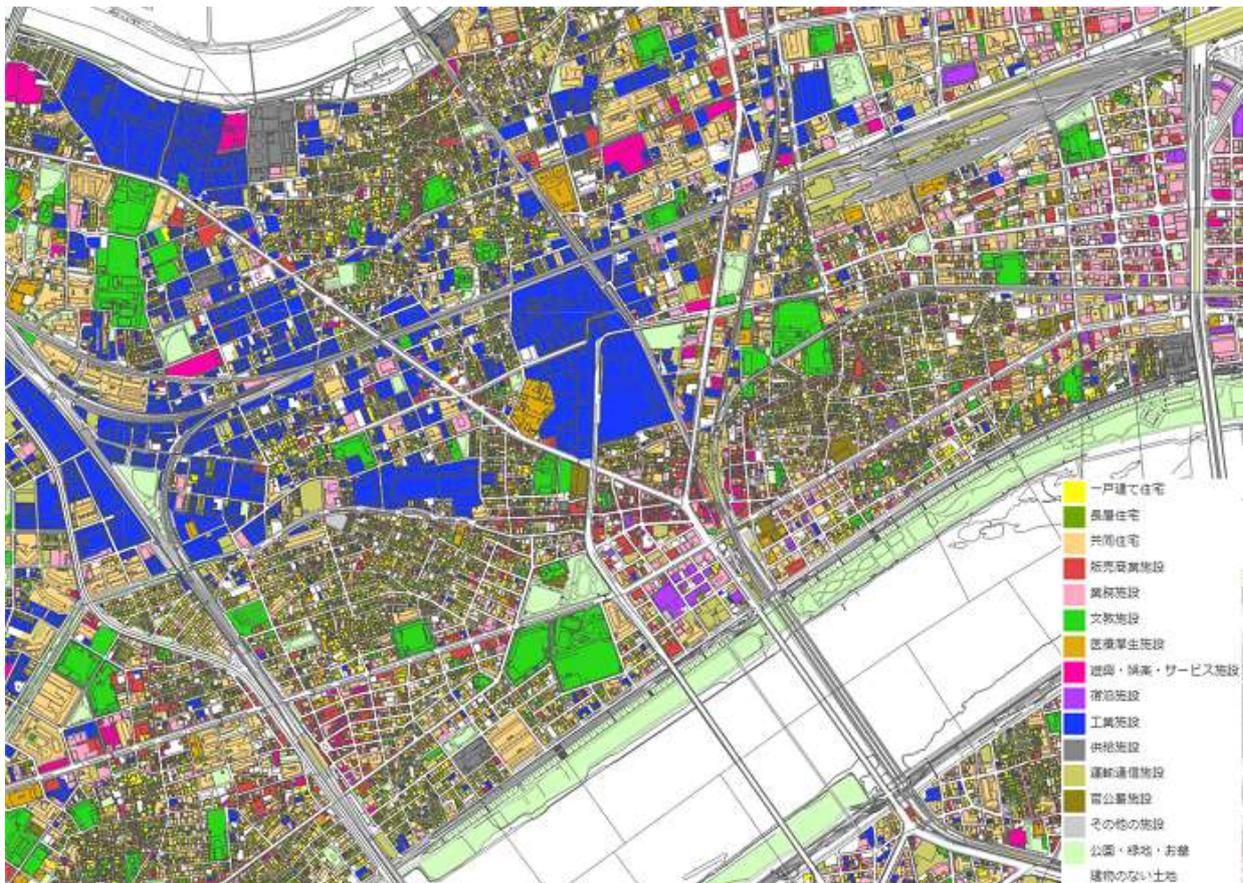
○十三の北側には、東は国道176号から西はJR神戸線まで工業系の用途地域が広がっている。



出典：マップナビおおさか

## ②十三周辺の土地利用(H29)

- 十三駅に近くは販売商業施設が立地、その北側及び東側には住宅の密集が見られる。
- 新北野交差点周辺には業務施設の集積が見られ、隣接して宿泊施設の集積が見られる。
- 淀川沿川は共同住宅などの住宅系の利用が多い。
- 十三駅の北西に大規模な工業施設が立地、その西側には中小規模の工業施設と住宅の混在が見られる。



出典：マップナビおおさか

### ③商店街

○十三駅周辺には多くの商店街が集積している。



出典：大阪市小売商業地図



十三トミータウン



十三フレンドリー商店街



十三サカエマチ商店街



十三駅前通商店街

#### ④阪急十三駅の乗車人員の推移

○1日の乗車人員は約4万人で、大阪市内でも鉄道間の乗換（改札を出る乗換）がある駅を除いた中ではトップクラス。2001年から少しずつ減少し、2007年頃からほぼ横ばいとなり、2014年からは微増となっている。

○元々は定期利用者の方が多かったが、定期外との差が徐々に縮まり、2008年以降はほぼ同程度となっている。



※各年度中の乗車人員を1日平均に換算したもの

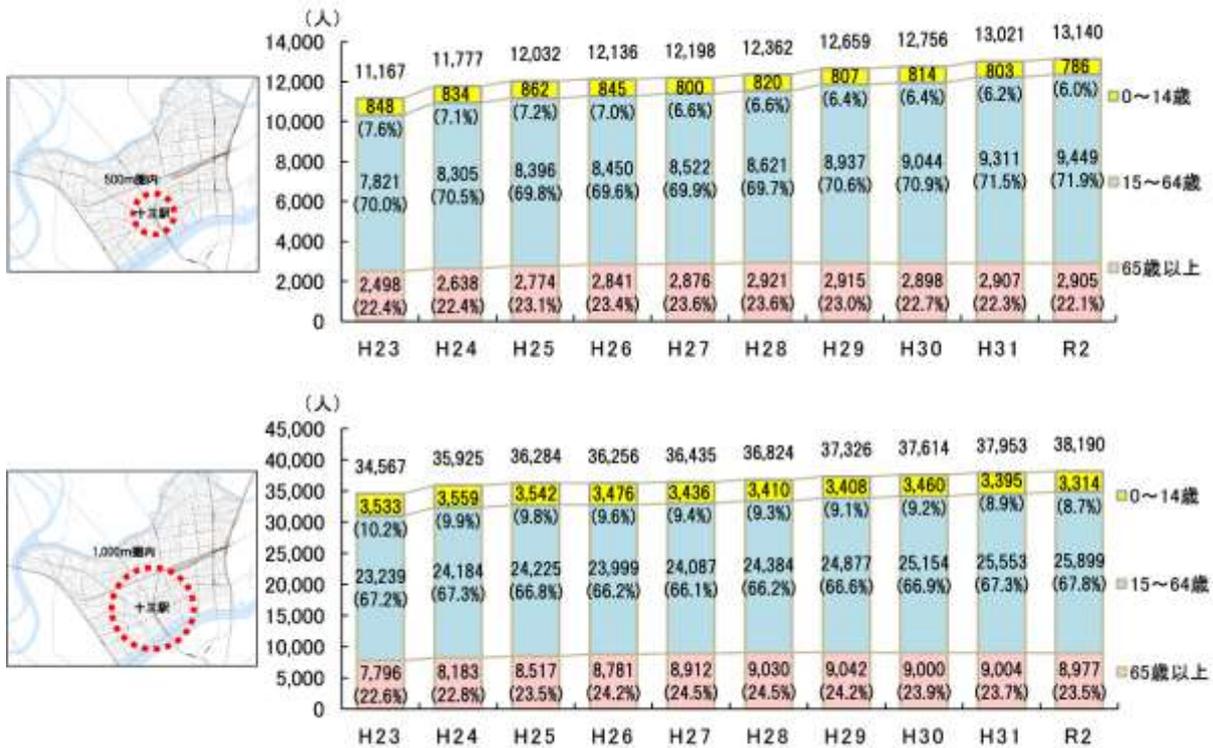
出典：大阪市統計書

## ⑤十三駅周辺の人口推移(500m圏、1000m圏)

○十三駅から500m圏内の人口は約1.3万人、1000m圏内の人口は約3.8万人で、いずれも増加傾向にある。

○十三駅から500m圏内の高齢化率は22.1%、1000m圏内の高齢化率は23.5%。

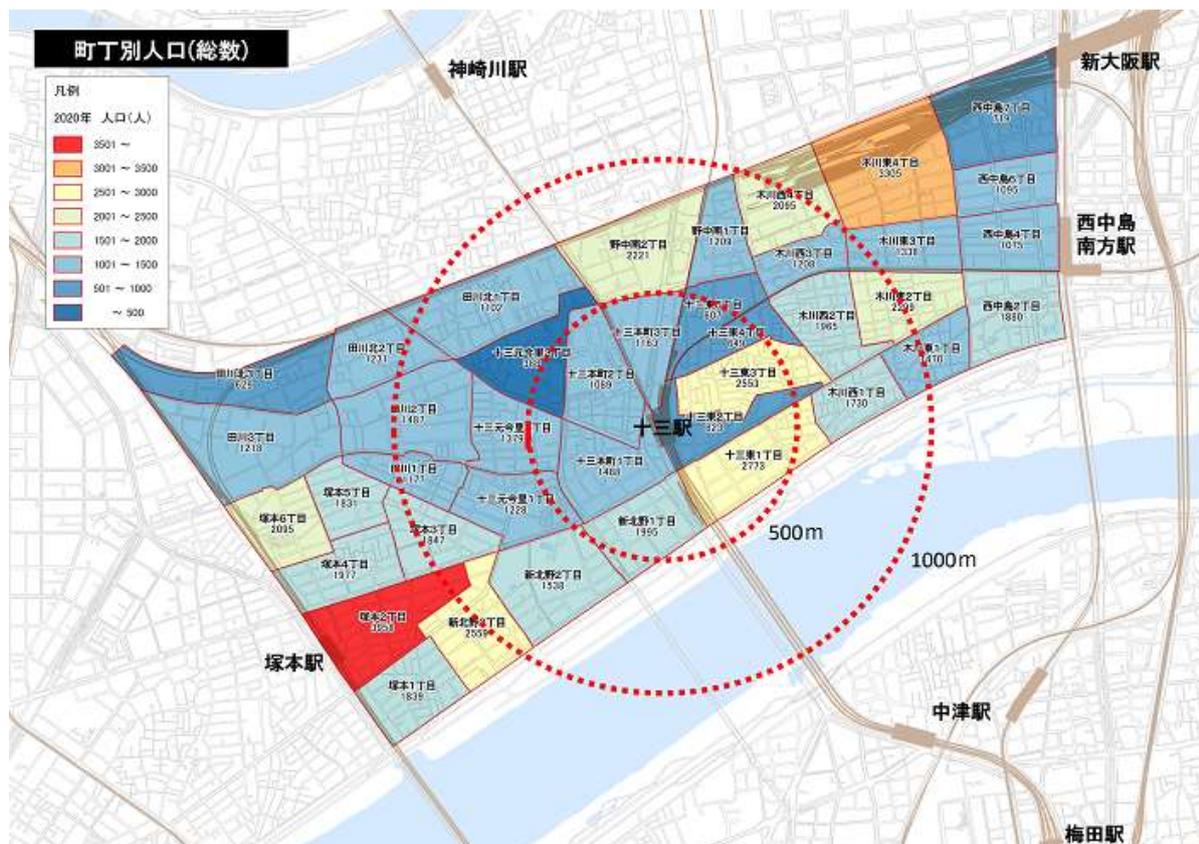
○十三駅から500m圏内の方が、15～64歳の生産年齢人口の割合が高い。



## ⑥十三駅周辺の町丁別の人口の状況

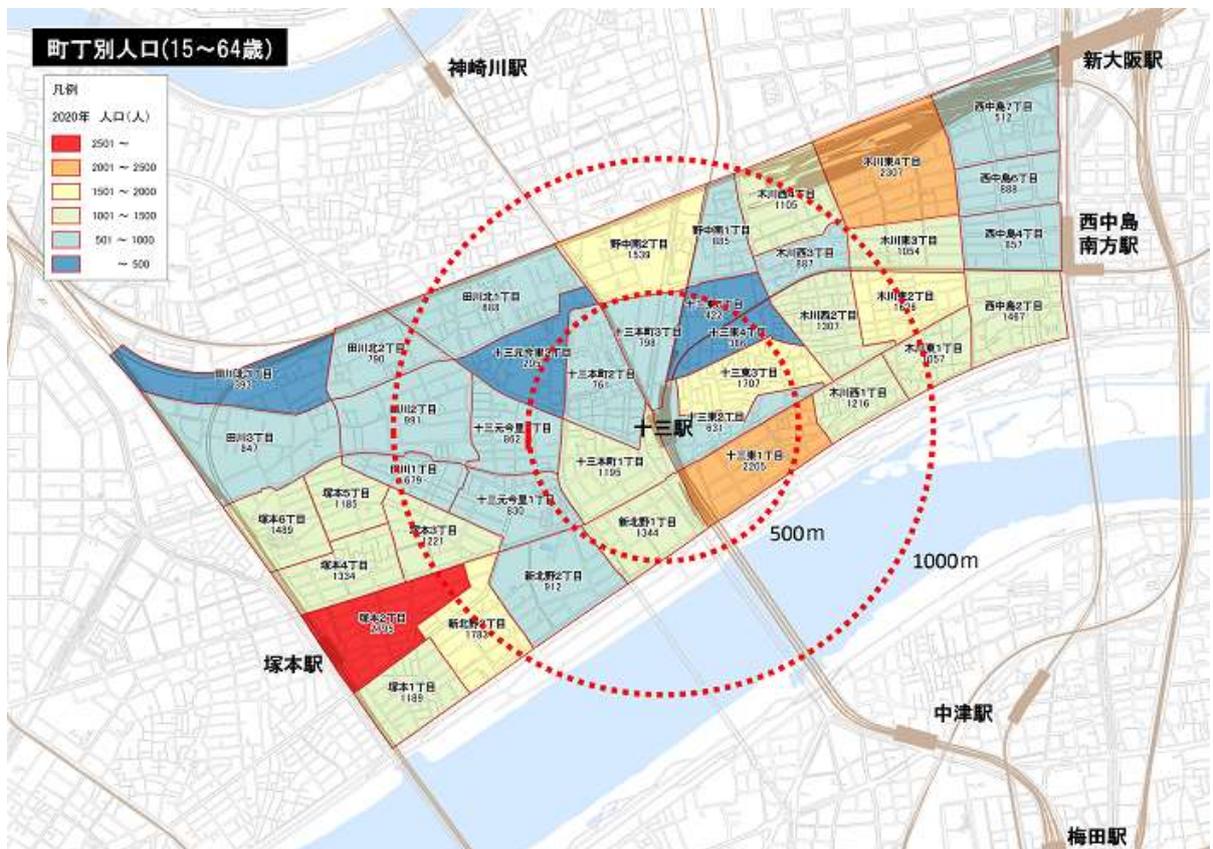
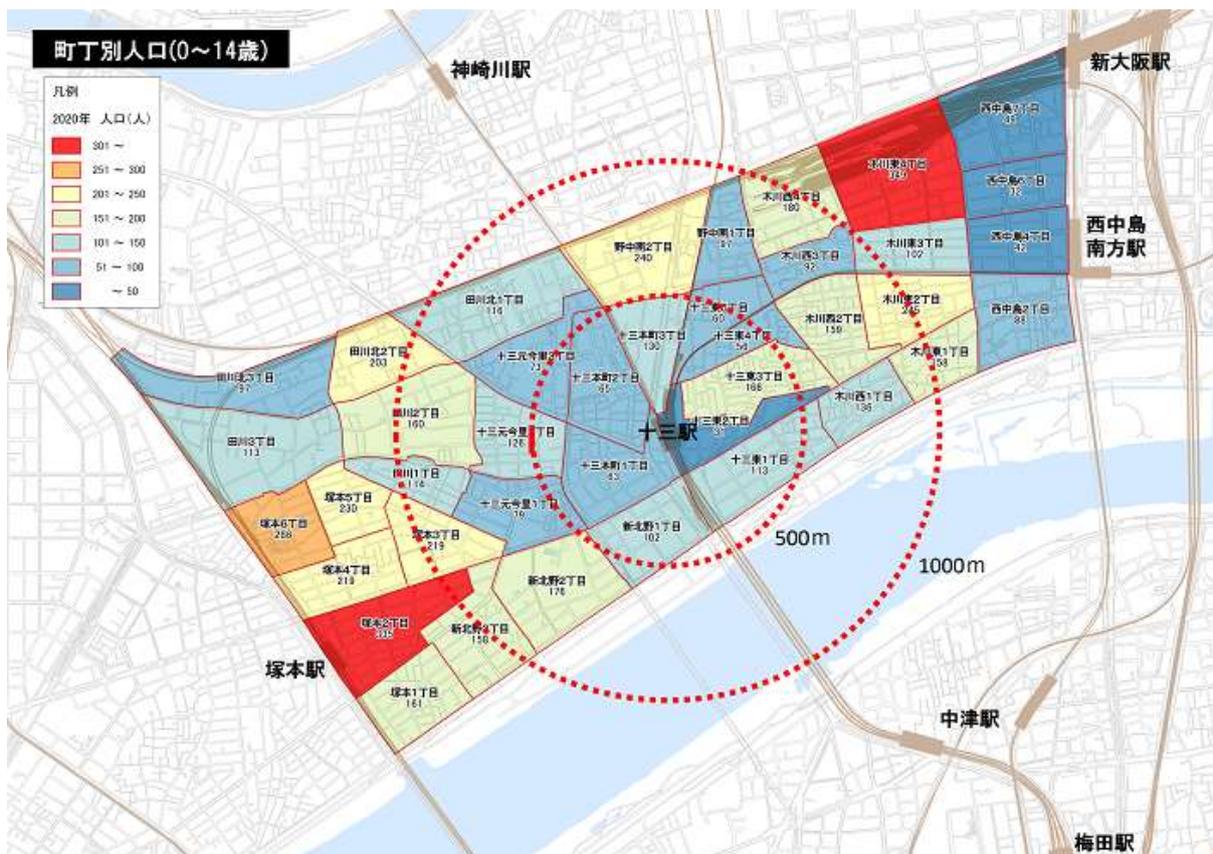
人口総数	○十三駅北東側及び塚本駅前に人口が多い町が分布している。
人口増減	○十三駅周辺の淀川通の北側に人口が減少している町が多く分布しており、十三駅の北東に位置する木川で一帯は人口増となっている。
人口密度	○十三駅周辺は概ね 101～150 人/ha（約 1 万～1.5 万人/km <sup>2</sup> ）となっている。 ○十三駅北東の木川一帯と塚本駅東側一帯の人口密度が高い。
年齢別人口	○0～14 歳が多い町は塚本駅周辺に多く分布している。 ○15～64 歳が多い町は、塚本駅前、十三駅東側の淀川沿いと宮原操車場沿いに分布している。 ○65 歳以上が多い町は、塚本駅前、十三駅東側の宮原操車場沿いに分布している。
高齢化率	○十三駅東側の木川西 4、十三東 4、十三駅西側の田川 1 で高齢化率が高い。

### ◆人口総数





◆年齢別人口

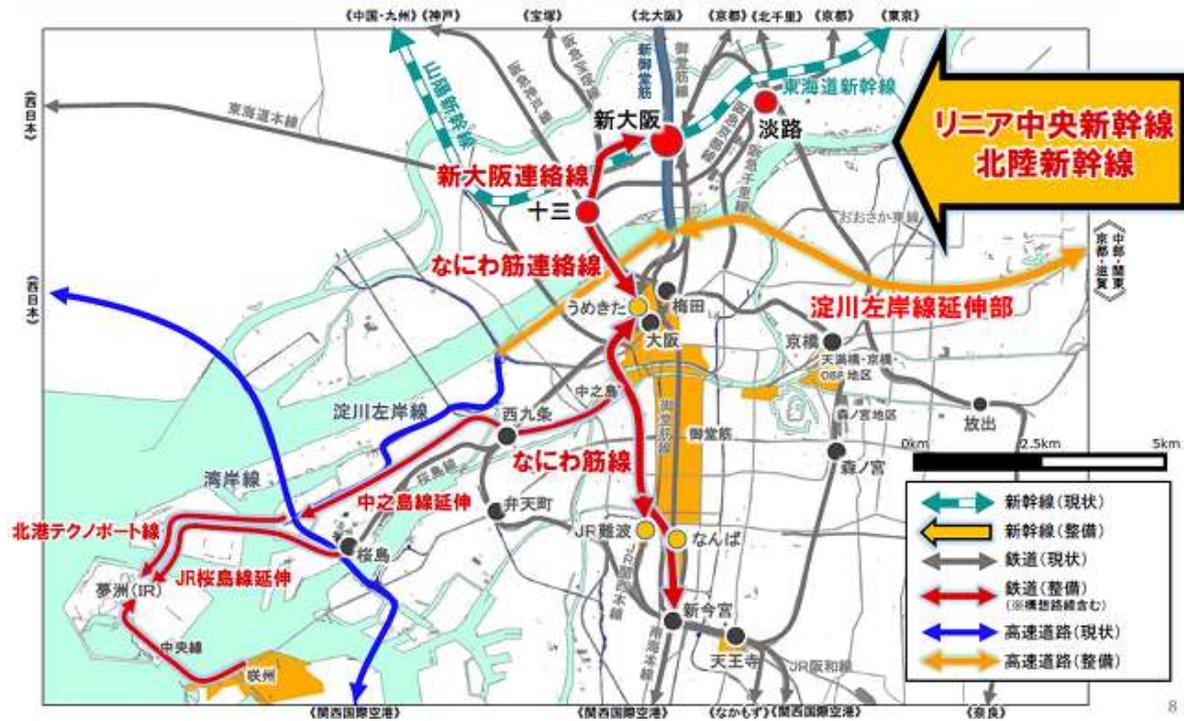




## ⑦2030年代の十三周辺を取り巻く交通ネットワーク(想定)

○リニア中央新幹線や北陸新幹線が接続する新大阪駅と十三駅を結ぶ「新大阪連絡線」と、なにわ筋線うめきた駅と十三駅を結ぶ「なにわ筋連絡線」が計画されており、新大阪・十三・梅田が鉄道で直結する予定。

- 鉄道：リニア・北陸・なにわ筋線等が整備され、関東・北陸・西日本方面や関西国際空港へのアクセス性が強化。
- 道路：淀川左岸線延伸部が整備され、高速道路を通じて京都・滋賀・中部・関東方面へのアクセス性が強化。



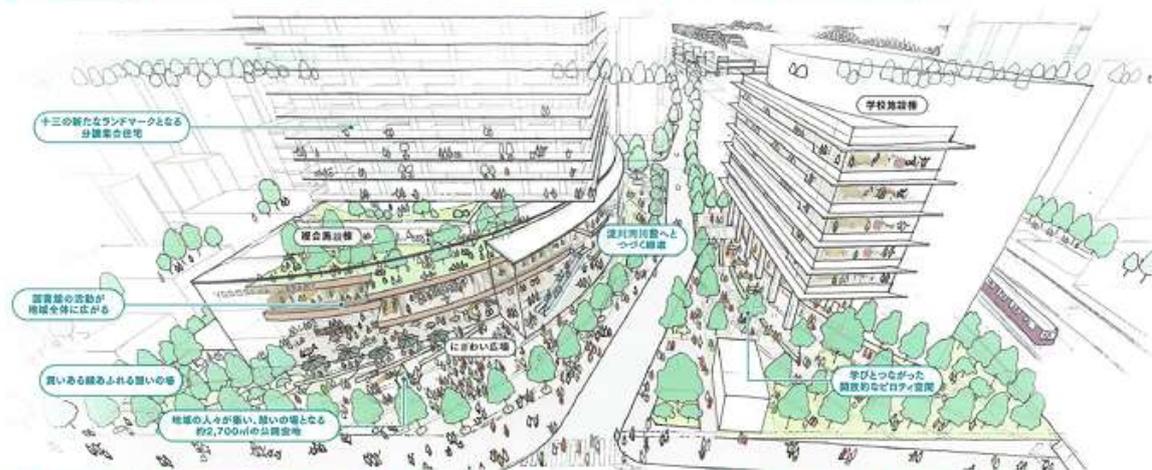
出典：大阪市HP

## ⑧もと淀川区役所跡地等活用事業 計画案

○もと区役所跡地には、図書館、保育施設、スーパーを併設した超高層マンションが計画されており、道路を挟んで専門学校が立地する予定。(2025年6月供用予定)



### 3敷地一体活用 約2,700㎡の公開空地を設け、十三駅中心に人々の新たな交流を生み出します

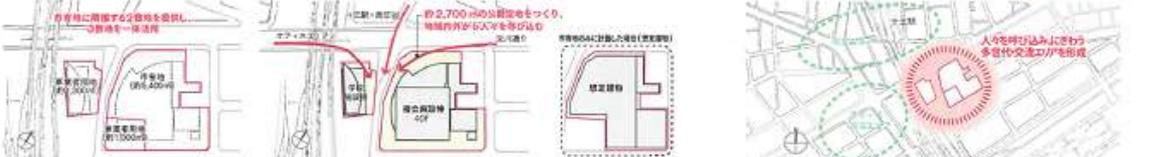


**3敷地を一体活用し、「約2,700㎡の公開空地」によって、地域交流の一大拠点を創り出します**

●市有地に隣接する2敷地(事業用地)を提供し、一体活用を図り、土地の高度利用とともに約2,700㎡の公開空地を設けます。豊かな緑に囲まれ、大勢の人々ににぎわう憩いの広場をつくり、十三エリアに新たな人々の交流を生み出します。

**「多世代・交流エリア」を核に、多くの人々を呼び込みます**

●にぎわい広場を核とした地域の新たなにぎわいをつくり出すことで、他都市からも多くの人々を呼び込み、十三の新しい都市ブランドを印象づけます。



出典：淀川区役所HP

## 2. 有識者ヒアリングの実施

以下の5つのテーマごとに、それぞれの有識者へのヒアリングを行った。

(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインによるヒアリングを実施)

次頁以降にヒアリングの結果概要を示す。

テーマ	有識者氏名	所属
マーケティング	徳山 美津恵	関西大学総合情報学部 大学院総合情報学研究科
まちの構造・交通	吉田 長裕	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
景観	藤本 英子	京都市立芸術大学 美術学部 デザイン科 (環境デザイン専攻)
防災	槻橋 修	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 准教授 神戸大学減災デザインセンター 副センター長
コミュニティ	寺川 政司	近畿大学 建築学部 建築学科 地域マネジメント研究室

## ①【景観】 藤本英子教授ヒアリング概要

令和3年2月1日（月）13:00～14:20

### <まとめ>

まちづくりの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水辺（淀川）の活用が重要</li> <li>○大人の街、大衆向けの、気軽で小さな文化の街</li> <li>○路地の魅力など、良きものを残す</li> <li>○平たく平面的に広がり、つながっていく、歩いて楽しい街</li> <li>○「梅田のとなり」を活かす</li> </ul>
景観づくりの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淀川から対岸を見る素晴らしい眺望を活かす</li> <li>○1，2階の低層部の屋外広告物などで十三らしい景観を新たに作る</li> <li>○行政による誘導よりも、地域で自主的にコントロールする方が良い</li> </ul>

### <上記以外のご意見（抜粋）>

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【残すべき良さ】を設定し、安全・安心をプラスする。</li> <li>○十三駅の西側と東側は分けて考えた方が良いと思う。</li> <li>○朝、昼、晩の使い分けが重要ではないか。</li> <li>○どういう街をめざすかを地域で話し合い、ワークショップなどをしながら育てていき、考え続けることが重要。</li> </ul>
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行政はゆるく関わり、制度などでがんじがらめにしない方が良い。</li> <li>○民間や個人が動きやすい仕組み・場づくり、民間による自治（エリマネ等）が重要</li> <li>○景観面では屋外広告物を地域で見守る・作る自主管理が重要。行政の管理だと緩い。北浜テラスでも地域で協議会を作って自主管理している。</li> </ul>
淀川における 景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淀川から対岸の梅田の眺めは「なにわのブルックリン」。国内に同様の眺めはほとんど無く、外国のよう。海からのような風景を陸上から楽しめる場所。</li> <li>○北浜テラスのような、夕方から夜にも楽しめる環境づくりが必要。</li> <li>○明かりのコントロールが必要。淀川の暗さや対岸の高層ビル群の明かりなどが魅力的に映えるように、暗さを魅力とし、明かりが多過ぎないような環境づくりが重要</li> </ul>
淀川の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○船や中之島で見る SUP（サップ）など、普段から水の上で遊べると良い。</li> <li>○対岸の梅田の夜景を見ながら、ビールでもゆっくり飲めるような場所があれば良い。</li> </ul>
淀川への アクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○万博で船着き場ができるので、舟運を活用する。</li> <li>○十三～中津の渡し船を復活させてはどうか。</li> <li>○淀川との連携は重要であり、十三駅から淀川河川敷への人の流れを作ることが必要。</li> </ul>

## ②【防災】 槻橋修准教授ヒアリング概要

令和3年2月2日（火）16:00～17:20

### <まとめ>

まちづくりの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道・車のジャンクションとしての機能・要素を活かす</li> <li>○ガチャガチャした大人の街の良さを残す</li> <li>○重層的に存在する多様なコミュニティを活かす</li> <li>○梅田と新大阪の途中の街、サードタウン</li> <li>○ターゲットを明確にする                      ○学生（北野高校など）の参画</li> </ul>
防災・減災の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まずは地域の住民や労働者へアプローチし、どこが危険でどこが安全かなどのイメージを共有</li> <li>○何かあった時に十三に居る人に加えて、淀川を渡ってくる人等も含めた安全確保</li> <li>○垂直方向の避難場所の確保と情報共有や、防災面でのインフラの信頼性、安全な範囲などの見える化</li> <li>○具体的な取組の一步としての模型づくりワークショップ</li> </ul>

### <上記以外のご意見（抜粋）>

役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「防災」はハードで、避難の場所やルートなどの安全設計を行政が公共サービスとして行うものであり、それを住民等に普及・教育するもの。</li> <li>○「減災」は「防災」でカバーできない部分を補うもので、個人・家族・仲間などのコミュニティを中心として自助・共助・公助を行うもの。まちづくり協議会などが全体の防災計画を立て、コミュニティ単位に落とししていく。非常時のリスクを考える。</li> </ul>
東日本大震災に 関わった経験 からの知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東日本大震災の被災地で、学生と失われた街のジオラマ模型を作り、地域の住民の思い出を再現していくワークショップを行ってきた。例えば現在の街の模型があると、昔話から始まりはするが、これからどうするかという将来の話に発展することが分かった。</li> </ul>
活用できそうな 防災・減災 の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○模型という街を具現化するものを見せることによって、皆の意識が集まってくるので、新しいまちづくり、コミュニティづくりのきっかけとして良いアイデアだと思う。</li> <li>○いきなり防災をテーマにして取り組むよりは、この方が入口のハードルが低い。</li> </ul>
事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十三は池袋の小さい版のような感じがする。鉄道で東西に分かれ、周辺に向かって放射状にさまざまなコミュニティが混ざって存在している。</li> <li>○豊島区は「セーフコミュニティ」を掲げており、防災と高齢者対策等を組み合わせて取り組んでいる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北野高校の学生がポジティブな関係で十三のまちづくりに関わる機会を作ってはどうか。</li> </ul>

### ③【コミュニティ】 寺川政司准教授ヒアリング概要

令和3年2月3日（水）10:00～11:20

#### <まとめ>

まちづくりの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下町の文化・雰囲気の魅力を残す</li> <li>○淀川の活用が重要（川と駅・街のつながり）</li> <li>○ターゲットの設定と電車を降りて街に出てもらえる魅力づくり</li> <li>○マイノリティーも含めて多様性を受け入れる懐の深い街</li> <li>○十三だけにとどまらず、周辺の街を巻き込む</li> <li>○鉄道網を活かした遠隔地との連携</li> </ul>
コミュニティを 活かした まちづくりの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定住型だけではない、多様な人やコミュニティが交わり、化学反応が起きる街</li> <li>○何かができる、経験できる、チャレンジできる街。それを行政・商店街・地域が支援する街。</li> <li>○全然違う立場の人が出会うきっかけ作り（防災やコロナをテーマに）</li> <li>○学生の活用</li> </ul>

#### <上記以外のご意見（抜粋）>

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○駅を挟んで東側と西側で関わるコミュニティや人口が違う。地域全体の魅力として、地域の誇りや魅力を見える化する必要性あり。</li> <li>○街を知らない人が多いので、街を知ってもらう、ステークホルダーとつながることは課題である。</li> <li>○エリアリノベーションが起きるのは裏手の使えない不動産を使うことから始まることもよくある。そういう場や人を探す必要がある。</li> </ul>
可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人が循環するハブであり、新陳代謝ができる魅力がある。人が訪れて、抜けて、また出会う、集まって、化学反応を起こしていくような機能を持ちそうな街である。</li> </ul>
地域と商店街の 関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何が課題なのか、例えば、高齢化、子ども、個店の経営、環境、騒音など。それぞれが感じているリアリティにどれだけ触れられるかが重要。リアリティをうまく紡ぐことで、街の東西分断の解消にもつながる。</li> <li>○それぞれが共有できる切実なテーマであれば、違う立場の人たちが集まって議論が始まることはよくある。十三の場合、「防災」は関心が高いと思う。それから、今回の「コロナ禍、アフターコロナ」も誰もが避けて通れない、街の東西に共通のテーマになる。</li> </ul>
多様な コミュニティ の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SNSなどで地域情報を発信する個人のアクターも街には必要。</li> <li>○小さな商店ブースという、多様なユニットがたくさんあるので、柔軟に使い分けることで街全体の空間として魅力があると思う。多様なコミュニティが街全体を使いこなし、小さなコアを作っていく、マネジメントしていく街になればよい。</li> </ul>

#### ④【まちの構造・交通】 吉田長裕准教授ヒアリング概要

令和3年2月5日（金）13:00～14:30

<まとめ>

まちづくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ターゲットの設定が重要</li> <li>○強みと弱みの整理と把握・分析</li> <li>○行政の縦割り管理から民活・エリアマネジメントへ</li> </ul>
まちの構造・交通の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ターミナル機能の強化と東西接続及び南北接続（国道176号）の強化</li> <li>○淀川をランドスケープとして取り込むとともに、オープンスペースの活用や、水上及び空中交通及び新たな都市施設の設置に活用</li> <li>○工業の活用（高度人材集積、ITとの連携など）</li> </ul>

<上記以外のご意見（抜粋）>

将来交通網の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○24時間化の新大阪に近い十三ターミナルは様々な役割と可能性がある。</li> <li>○梅田と十三の大規模ターミナル間は、沿線も含めて、国道176号にBRTやLRTを走らせるだけの潜在需要があると考えられる。</li> <li>○国内ではシェアサイクルが公共交通になっていない。シェアサイクルで鉄道各社の路線をつなぐ事ができれば、阪急・阪神・JR・地下鉄の各路線沿線へのアクセスが向上し、いろいろな種類の活動機会が増える可能性がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淀川の災害時のリスク分散を図っていくためのインフラ整備は必要ではないか。</li> <li>○都市の近くの工業地帯は高度人材が集めやすい場所であるため、工業活性化やITとの融合などを行っていくための支援・方策の検討が必要。</li> </ul>
淀川を活用した魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛馬方面や淀川河口方面をつなぐ水上交通の可能性がある。西淀川区の西島川の所に漁港（福漁港）があつて船着き場があるので、それらも含めた大きなネットワークと梅田方面との小さな舟運ネットワークとして使う可能性もある。</li> </ul>
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業者がマネタイズしたいこと、新しく実施したいことに関して、規制を撤廃していく流れ。日本だと特区をめざすのも一つのあるべき姿と思う。民間のアイデアを行政がどうサポートしていくかという考え方が大切。</li> </ul>
事例より	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淀川、神崎川の水に囲まれたエリアをどう捉えるか。西淀川、淀川を水辺に囲まれた島のように捉えてイメージを刷新していくようなブランドづくり</li> <li>○工業地帯の活用例で産業観光が可能性を秘めている。都心から近い工業地帯だからできることもあるはずで、そこにアート系の人たちが入ってきて、活性化する要素として重要な役割を果たしている。</li> </ul>

## ⑤【マーケティング】 徳山美津恵教授ヒアリング概要

令和3年2月17日（水）10:00～11:20

<まとめ>

まちづくりの 方向性	○文化的多様性や寛容性のあるクリエイティブな面白い町 ○淀川の活用
ブランディング の方向性	○大人の下町（アングラ的文化の創造や路地の魅力、それらの発信） ○淀川河川敷の活用 ○広域のエリアの中での位置づけの明確化（新大阪～梅田） ○地域の人達における地域の認知と参加

<上記以外のご意見（抜粋）>

課題	○関西では知られているが、他の地域にはほとんど知られていない。 ○ブランド・イメージの問題として、関西でも悪いイメージがある、もしくは知らない。 ・マイナスのイメージ（歓楽街のイメージ）をゼロにしていくにはどうすればよいか ・淀川花火大会（マンションの売りでもあった）のイメージの未活用 ・多様性、寛容性のあるクリエイティブな面白い町というイメージをどう育てるか ○西側と東側の温度差と意識の違い、街の汚さ
可能性	○ハイカルチャーは梅田で、十三はローカルチャーの街、クリエイティブな人達を引き付ける街。
ブランディング	○商店街だけでなくマンションを含めた地域住民の交流舞台が必要。 ○子供でも楽しめるものが必要（十三への愛着を育てるため）
役割分担	○トップダウンではなくボトムアップであるべき ○地域で面白いことをやりたいという民間企業や地域住民の声を拾い上げる仕組みが必要
事例より	○横浜のみなとみらいでは、そこだけではなく、関内や桜木町なども含めた全体の交通などを考えている。みなとみらいが新しさや先端の役割をし、古き良きを関内が担っている。梅田・十三・新大阪の役割分けが必要 ○ポートランドのADXのように、十三でも何かやりたい人が集まれる面白いコミュニティづくりとして、メーカーズスペースは良い事例。 ○東急池上線祭りのように十三も商店街が多いので一致団結する仕掛けが必要。 ○小豆島カメラのように、十三も裏路地や生活を発信できる仕組みがあってもよい。

### 3. 全体会議の開催

5人の有識者のヒアリング結果を受けて、5人の有識者を一堂に集めての全体会議を行った。

(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインによる会議を実施)

次頁以降に全体会議の結果概要を示す。

#### ■開催日時

令和3年3月10日(水) 15:00~17:00

#### ■出席者

有識者：徳山教授（関西大学）、藤本教授（京都市立芸術大学）、寺川准教授（近畿大学）、  
槻橋准教授（神戸大学）、吉田准教授（大阪市立大学）

都市活力研究所：三本松主席研究員、奥村主席研究員

総合調査設計(株)：笹井



■まとめ

<p><b>テーマ1</b> 広域連携</p>	<p>○梅田と新大阪の間で十三が受ける影響を考えていく必要あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新大阪駅の24時間化や関空・伊丹との直結により進展する国際化への対応による新たな展開と発展</li> <li>・梅田と新大阪に隣接しているが故に、独自性や位置づけを明確化する</li> <li>・防災系のハブやベンチャー集積などの新しい機能を持ったまちづくりの可能性</li> </ul> <p>○公共交通網のハブとしての立地の活用と機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪、京都、神戸のインフォメーション機能など</li> </ul> <p>○渡し船による梅田・中津との接続</p> <p>○なにわ筋線の繋がりで、十三と新今宮を文化で繋ぐ</p>
<p><b>テーマ2</b> 大人文化</p>	<p>○ターゲットの議論・設定が必要</p> <p>○ヒューマンスケールでごちゃ混ぜ感がある下町の雰囲気を残しつつ、防災性能を高めたまちづくり</p> <p>○お洒落でセンスがいい部分も取り込む</p> <p>○元からあるアングラ的な要素に、国際性や24時間化が付加されて更なる大衆文化の発展へ</p> <p>○何かやってもいい、チャレンジできる、いろいろな場所で何かが起きているまち。チャレンジしたい人がビジョンを掴める街。</p> <p>○学生が学び、チャレンジできる、ちょっと背伸びできる街</p>
<p><b>テーマ3</b> 淀川の活用</p>	<p>○淀川から見る梅田の景観が素晴らしい。稀有な景観スポット。</p> <p>○船着き場・舟運の活用。十三と大阪城、道頓堀、USJなどを結び、鉄道だけではない交通ハブを形成。西淀川区の港との連携。</p> <p>○線状の管理を超えて、面的な場・空間としての考え方とより良い使い方</p> <p>○都市部では得難いオープンスペースとしての活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規制緩和、ドローンなどの空中利用サービス拠点や実験場所など</li> </ul> <p>○地域がマネジメントできる仕掛けが必要</p>

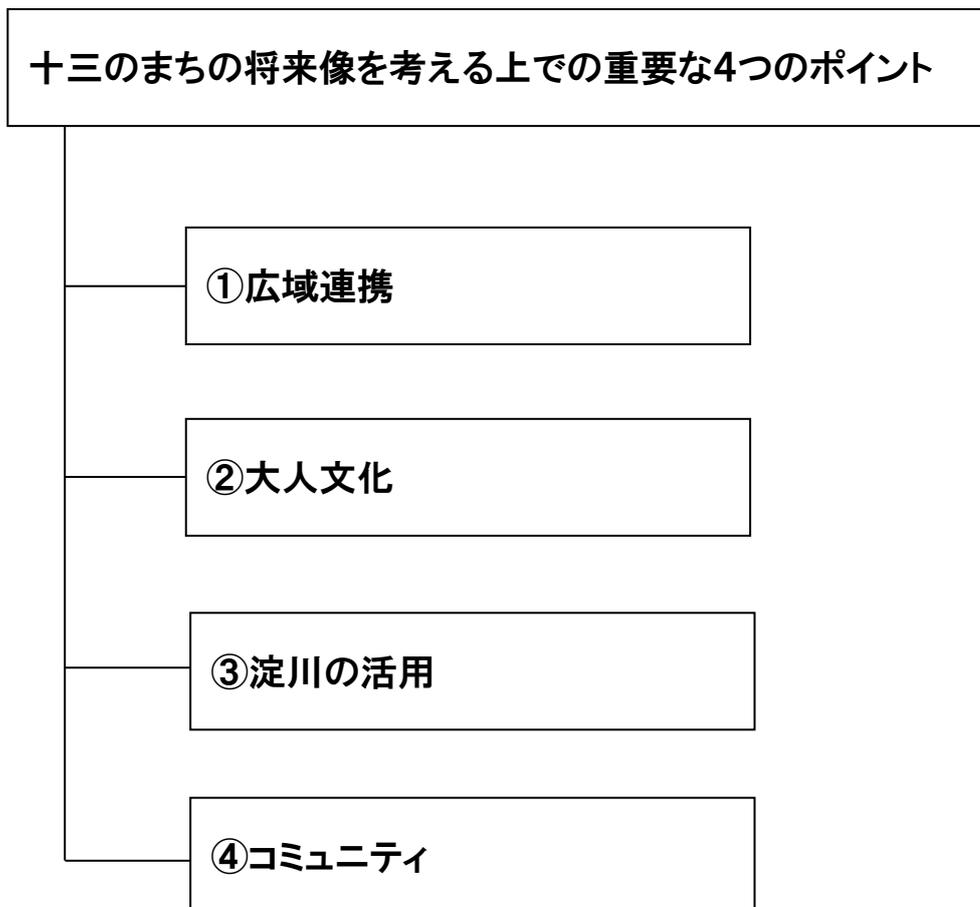
<p>テーマ4 コミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十三は周辺も含めて、地域コミュニティ以外に商店街や若者のつながりなど多様なコミュニティを持っている。</li> <li>○商店街でやる気のある人達を中心に組織化の動きあり</li> <li>○若者を入れるには、やりたいことを自由にやれる空気と横の繋がりが重要。世代の入れ替わりをどうするかも重要な課題。</li> <li>○多様なコミュニティの分散化と緩やかなネットワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>・人、モノ、出来事の見える化とプレイヤー等が出会う場</li> <li>・参加しやすい場所、まちづくりができる居場所</li> </ul> </li> <li>○一つのブランドイメージにまとまっていない方がコミュニティが入りやすく、育つ可能性が高まる。</li> <li>○誰が、どういうコミュニティが主体になるかが重要なカギ。大資本が入りにくい仕組みや雰囲気を作れば、ジェントリフィケーションを防ぐことも可能。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の構築や地域貢献の審査基準</li> </ul> </li> <li>○エリアマネジメントを使う場合、十三に合った応用・工夫が必要</li> <li>○LGBTQ+を含め、多様な人を受け入れる</li> <li>○自分達の地域が外から評価されることが街を活性化させる。</li> </ul>
------------------------	---

## 4. とりまとめ

全体会議及び各委員のヒアリング内容を踏まえ、十三のまちの将来像を考える上での内容や意見のとりまとめを行った。

「マーケティング」「まちの構造・交通」「景観」「防災」「コミュニティ」の5つのテーマで有識者にヒアリングを行った上で、全体会議では重要な4つのポイントに絞って議論を行った。

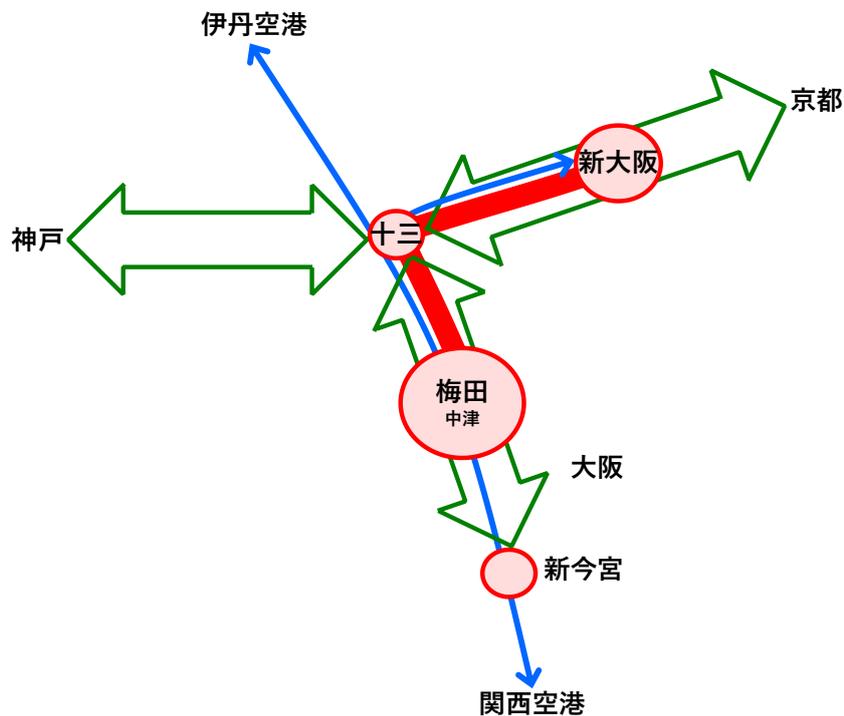
今後の議論に向けて、その内容について改めて整理しておく。



## ①広域連携について

「広域連携」において、主に梅田・新大阪との関係や、交通を中心としたハブ機能の視点で、以下のような意見やアイデアが得られた。

- 梅田と新大阪の間で十三が受ける影響を考える必要性
  - ・新大阪駅の 24 時間化や関空・伊丹との直結により進展する国際化への対応による新たな展開と発展
  - ・梅田・新大阪都の違い・独自性
  - ・新しい機能を持ったまちづくりの可能性
- 防災系のハブやベンチャー集積など
- 公共交通網のハブとしての立地の活用と機能強化
  - ・大阪、京都、神戸のハブとしてのインフォメーション機能など
- 渡し船による梅田・中津との接続
- なにわ筋線の繋がり、十三と新今宮を文化で繋ぐ



ハブになる十三と広域連携のイメージ

## ②大人文化について

「大人文化」において、主に梅田とは違う下町の良さや多様な大衆文化の継続・発展の視点で、以下のような意見やアイデアが得られた。

- ターゲットの議論・設定が必要
- ヒューマンスケールでごちゃ混ぜ感がある下町の雰囲気を残しながら、防災性能を高めたまちづくり
- お洒落でセンスがいい部分も取り込む
- アングラ的な要素に、国際性或24時間化が付加されて更なる大衆文化の発展へ
- 何かやってもいい、チャレンジできる、いろいろな場所で何かが起きているまち。
- チャレンジしたい人がビジョンを掴める街。
- 学生が学び、チャレンジできる、ちょっと背伸びできる街



路地の飲み屋



第七藝術劇場などの文化施設  
(映画館、ライブハウスなど)

### ③淀川の活用について

「淀川の活用」において、主に景観・交通・空間利用の視点から以下のような意見やアイデアが得られた。

- 梅田側を眺める**稀有な景観スポット**・視点場を活かした活用
- 船着き場（万博用に整備予定）の活用
- 舟運の活用
  - ・万博会場の夢洲、大阪城、道頓堀、USJなどと結ぶ
  - ・西淀川区の港との連携
  - ・十三と中津を結ぶ渡し船
- ※淀川大堰の改良計画があり、大川や枚方方面などの上流へも行けるようになる予定
- 河川敷などの**オープンスペース**としての活用
  - ・規制緩和、ドローンなどの空中利用サービス拠点や実験場所など
- 線状管理から**面的管理**へ



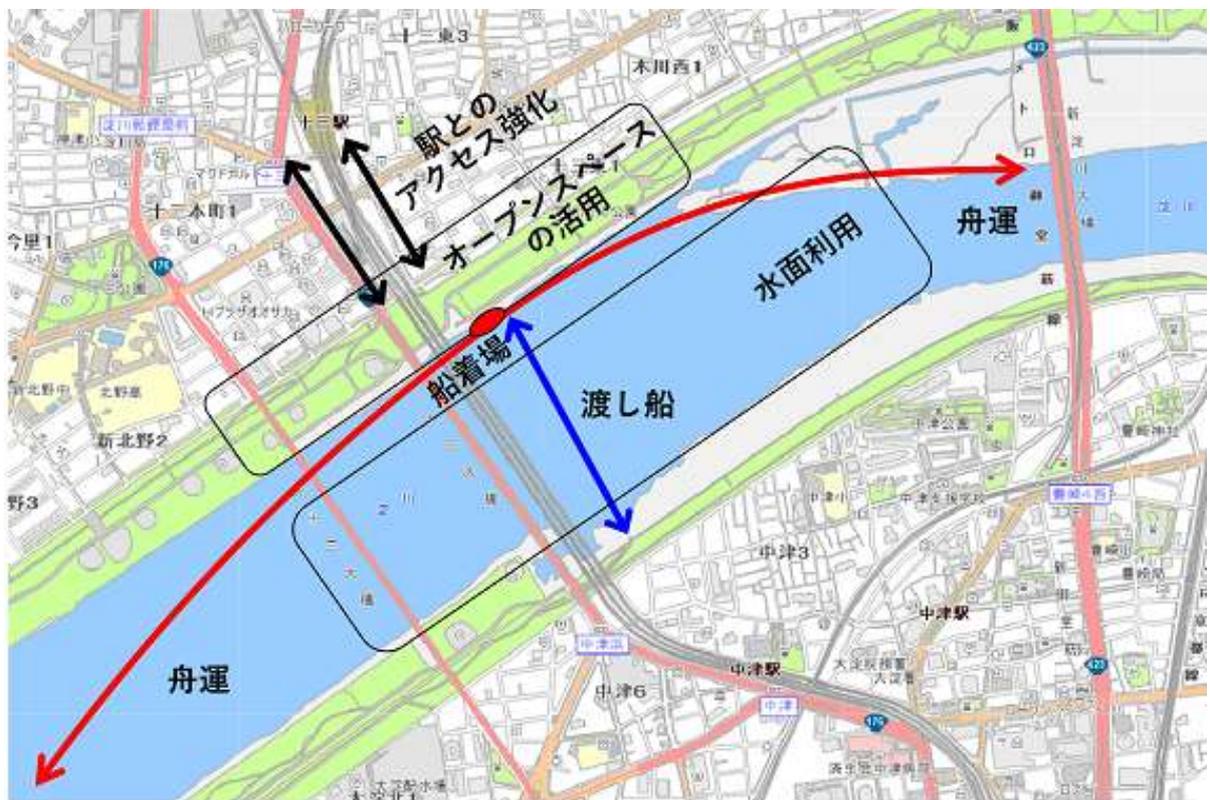
十三側の淀川堤防上から梅田方面の眺め



淀川河川敷のオープンスペース（左写真：十三大橋上流側、右写真：十三大橋下流側）



十三の船着き場から発着する舟運ネットワークのイメージ



淀川の利活用及びアクセス強化のイメージ

#### ④コミュニティについて

「コミュニティ」において、主に多様性の視点から以下のような意見やアイデアが得られた。

- 十三は周辺も含めて、地域コミュニティ以外に商店街や若者のつながりなど**多様なコミュニティ**を持っている。
- 若者を入れるには、**やりたいことを自由にやれる空気と横の繋がり**が重要。世代の入れ替わりをどうするかも重要な課題。
- 多様なコミュニティの**分散化と緩やかなネットワーク**
  - ・人、モノ、出来事の見える化とプレイヤー等が出会う場
  - ・参加しやすい場所、まちづくりができる居場所
- 一つのブランドイメージにまとまっていない方がコミュニティが入りやすく、育つ可能性が高まる。
- 誰が、どういうコミュニティが主体になるかが重要なカギ。大資本が入りにくい仕組みや雰囲気を作れば、ジェントリフィケーションを防ぐことも可能。
  - ・協議会の構築や地域貢献の審査基準
- エリアマネジメントを使う場合、十三に合った応用・工夫が必要
- LGBTの人が居やすい多様性
- 自分達の地域が**外から評価**されることが街を活性化させる。

## 4つのポイント以外で各テーマのヒアリングで得られた主な意見

有識者へのヒアリングにおいて、各テーマの方向性について以下に集約・整理を行った。(第2章の再掲)

<p><b>景観づくりの方向性</b> (藤本教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○淀川から対岸を見る素晴らしい眺望を活かす</li> <li>○1, 2階の低層部の屋外広告物などで十三らしい景観を新たに作る</li> <li>○行政による誘導よりも、地域で自主的にコントロールする方が良い</li> </ul>
<p><b>防災・減災の方向性</b> (槻橋先生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まずは地域の住民や労働者へアプローチし、どこが危険でどこが安全かなどのイメージを共有</li> <li>○何かあった時に十三に居る人に加えて、淀川を渡ってくる人等も含めた安全確保</li> <li>○垂直方向の避難場所の確保と情報共有や、防災面でのインフラの信頼性、安全な範囲などの見える化</li> <li>○具体的な取組の一步としての模型づくりワークショップ</li> </ul>
<p><b>コミュニティを活かしたまちづくりの方向性</b> (寺川先生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定住型だけではない、多様な人やコミュニティが交わり、化学反応が起きる街</li> <li>○何かがやれる、経験できる、チャレンジできる街。それを行政・商店街・地域が支援する街。</li> <li>○全然違う立場の人が出会うきっかけ作り (防災やコロナをテーマに)</li> <li>○学生の活用</li> </ul>
<p><b>まちの構造・交通の方向性</b> (吉田先生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ターミナル機能の強化と東西接続及び南北接続 (国道 176 号) の強化</li> <li>○淀川をランドスケープとして取り込むとともに、オープンスペースの活用や、水上及び空中交通及び新たな都市施設の設置に活用</li> <li>○工業の活用 (高度人材集積、ITとの連携など)</li> </ul>
<p><b>ブランディングの方向性</b> (徳山先生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大人の下町 (アングラ的文化の創造や路地の魅力、それらの発信)</li> <li>○淀川河川敷の活用</li> <li>○広域のエリアの中での位置づけの明確化 (新大阪～梅田)</li> <li>○地域の人達における地域の認知と参加</li> </ul>

